

平成29年度 環境活動レポート

(対象期間 H29年6月1日 ~ H30年5月31日)



平成30年8月3日
篠崎木工株式会社

目 次

- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.組織表
- 4.環境方針
- 5.環境目標
- 6.環境活動計画
- 7.環境目標の実績
- 8.環境負荷実績
- 9.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容
- 10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 11.代表者による全体の評価と見直し指示

1.組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

篠崎木工株式会社

代表取締役社長 戸叶 寛

2) 所在地

本社 栃木県佐野市大橋町1366番地
石塚工場 栃木県佐野市石塚町568番地
資材部 同上
藤岡工場 栃木県栃木市藤岡町都賀1363番地
足利工場 栃木県足利市寺岡町48番地1号
宮城工場 宮城県加美郡色麻町四竈字大原217番地11号
小山工場 栃木県小山市土塔560番地 (株)UACJ工場内

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 足利工場 岡村 貴幸 tel 0284-90-2280 fax 0284-90-2281

事務局 石塚工場 味村 信也
資材部 大島 紀和
藤岡工場 畠山 常典
足利工場 岡村 貴幸
宮城工場 伊藤 祐司
本社 牧野 和博

4) 事業内容

住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売

5) 事業規模

売上高	5,672百万円 (平成29年度)			
従業員	216名 認証登録範囲対象事業所 184名			
敷地面積	本社	85㎡	足利工場	3,982㎡
	石塚工場・資材部	20,735㎡	宮城工場	8,517㎡
	藤岡工場	15,332㎡	小山工場	顧客工場内

2.対象範囲

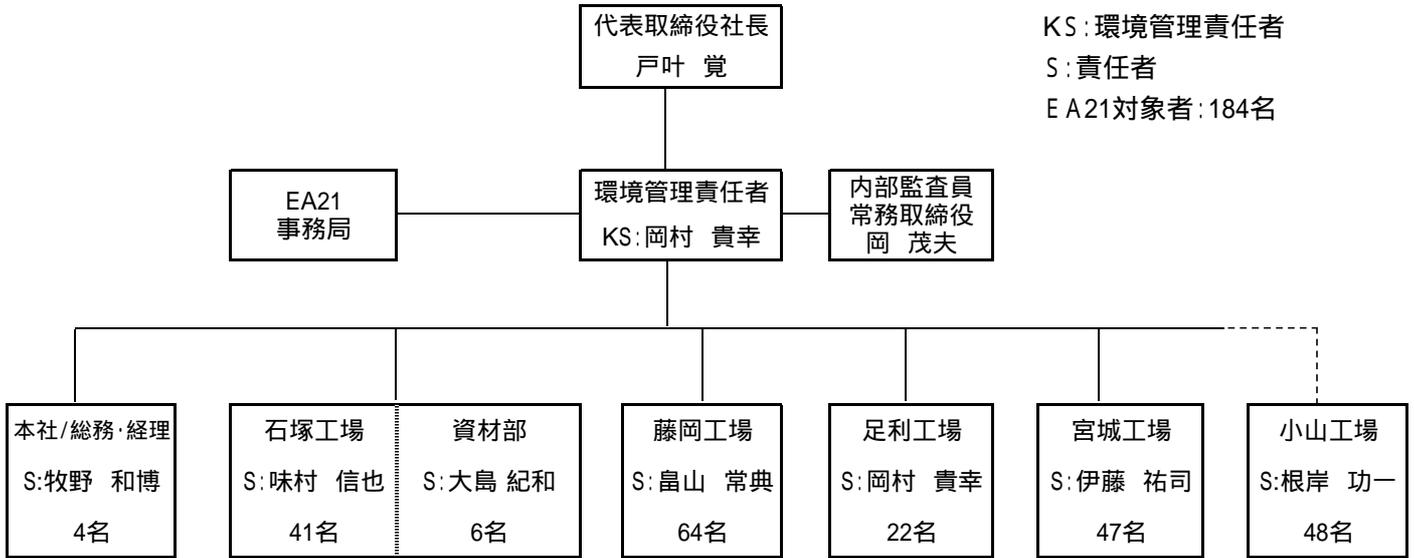
篠崎木工株式会社の住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売に関わる全ての事業を対象とする。

認証登録サイト	石塚工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	資材部	・輸入木材の販売、住宅関連設備の販売
	藤岡工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	足利工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	宮城工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売、及び鋼製部材の製造販売
	本社	・経理、総務

顧客EMS管理下にある 小山工場 ・顧客工場内請負作業(アルミ製品の検査・梱包)

3.組織表

制定日：平成25年12月1日
改定日：平成30年10月1日



KS:環境管理責任者
S:責任者
EA21対象者:184名

1

1 対象範囲外
小山工場は顧客EMS
管理下にある。

役割・責任表

責任者	役割
社長	1 環境方針を制定する 2 環境管理責任者を任命する 3 環境経営システムの全体の評価と見直しを行う 4 推進に必要な要員、技術、資金等を準備する 5 課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	1 環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する 2 環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する 3 環境への負荷及び取組の自己チェックの実施リーダー 4 環境目標及び活動計画を策定し、承認する 5 環境目標及び活動計画の達成状況や実施状況の確認と評価を行い、社長に報告する 6 環境関連法規の取りまとめ、最新チェック及び遵守状況の確認する 7 代表者による全体の評価と見直しのための情報を報告する
EA21事務局	1 EMS全体の活動を確認し、高環境作りをサポートする 2 EMS共通書類(文書・記録)の原本管理を行う
内部監査員	1 内部監査を実行する
責任者	1 部門ごとの活動計画を策定し、達成状況、実施状況を把握し、環境管理責任者に報告をする 2 部門ごとの教育訓練の実施リーダー 3 外部からの苦情や要望のを受け付ける窓口 4 文書、記録を管理する
社員	1 活動計画の担当者として実行する 2 システムで定めたルール、取り組み事項を自発的、積極的に実施する

環境経営方針

当社は持続可能な木製部材の生産を通じて
「調和のとれた快適環境の創造」を企業理念に
社員一人ひとりが、未来の地球環境を考え
今やるべき活動に取り組みます。

- (1)環境経営システムを構築し、維持向上に努めます。
- (2)環境に関わる活動を継続的に改善し、省エネルギーおよび環境負荷の低減に努めます。
- (3)環境関連法規制およびその他の要求事項を順守します。
- (4)原材料である木材を大切に使用し、不良品を作る無駄を減らし、端材を有効利用します。
- (5)クリーンウッド法を適正に運用し、合法伐採木材の流通及び利用を促進します。
- (6)生産活動より発生する不用品は、分別することで廃棄物を削減する。

平成30年6月1日
篠崎木工株式会社
代表取締役社長

戸叶 覚

5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

1)石塚工場・資材部

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	3,971 4,480 1	基準年-1% 3,931	基準年-2% 4,390 1	基準年-3% 4,346 1
	ガソリン使用量 (単位:l/千万円)	22.94 36.49 1	基準年-1% 22.71	基準年-2% 36.00 1	基準年-3% 35.00 1
	軽油使用量 (単位:l/千万円)	141.16 153.54 1	基準年-1% 139.75	基準年-2% 150.00 1	基準年-3% 149.00 1
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	2267 2,747 1	基準年-1% 2,244	基準年-2% 2,692 1	基準年-3% 2,664 1
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	9.105	基準年-1% 9.014	基準年-2% 8.923	基準年-3% 8.832
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	279 488 2	基準年-1% 276	基準年-2% 273	基準年-3% 473 2
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	7.51	基準年-1% 7.43	基準年-2% 7.36	基準年-3% 7.28
	水使用量 (単位:m3/千万円)	3.042 3.548 3	基準年-1% 3.012	基準年-2% 2.981	基準年-3% 3.442 3
	化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持		維持	維持	維持
	事業項目・輸入木材の不良率低減(単位:%)	6.90	基準年-1% 6.83	基準年-2% 6.76	基準年-3% 6.69

* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高当たりである。

* 1は設備の新設、増車により基準値の27年度とは状況が変化していることを踏まえて見直した。

* 2は樹種変更等の理由により、チップにできない産廃が増加したことを踏まえて見直した。

* 3は漏水の疑いが指摘されたが、工場内すべての漏水を確認することが現在不可能な為見直した。

5.環境経営目標 (平成28年度～平成30年度)

2) 藤岡工場

	項目:(原単位/千万円)	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に係る項目	電力消費量 (単位:kWh/千万円)	3363	基準年-1% 3,329	基準年-2% 3,296	基準年-3% 3,262
	ガソリン消費量 (単位:ℓ/千万円)	4.96	基準年-1% 4.91	基準年-2% 4.86	基準年-3% 4.81
	軽油消費量 (単位:ℓ/千万円)	68.6	基準年-1% 67.91	基準年-2% 67.23	基準年-3% 66.54
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1890	基準年-1% 1,871	基準年-2% 1,852	基準年-3% 1,833
廃棄物削減に係る項目	一般廃棄物排出量 (単位:kg/千万円)	12.818	基準年-1% 12.690	基準年-2% 12.562	基準年-3% 12.434
	産業廃棄物(合板) (単位:kg/千万円)	868	基準年-1% 859	基準年-2% 851	基準年-3% 842
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	22.42	基準年-1% 22.2	基準年-2% 21.97	基準年-3% 21.75
水使用量の節減 (単位:m3/千万円)		2.975	基準年-1% 2.945	基準年-2% 2.916	基準年-3% 2.886
化学物質使用量の制御		必要なSDSを入手し維持管理する			
事業項目・カダ製木材の不良率低減 (単位:%)		10.2	基準年-1% 10.1	基準年-2% 10.0	基準年-3% 9.9

* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高である

5.環境経営目標 (平成28年度～平成30年度)

3) 足利工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,516	基準年-1% 2,491	基準年-2% 2,466	基準年-3% 2,441
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	12.29	基準年-1% 12.17	基準年-2% 12.04	基準年-3% 11.92
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	49.74	基準年-1% 49.24	基準年-2% 48.75	基準年-3% 48.25
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,431	基準年-1% 1,416	基準年-2% 1,402	基準年-3% 1,388
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	5.011	基準年-1% 4.961	基準年-2% 4.911	基準年-3% 4.861
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	331	基準年-1% 328	基準年-2% 324	基準年-3% 321
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	461.00	基準年-1% 456.39	基準年-2% 451.78	基準年-3% 447.17
	水使用量 (単位:m3/千万円)	9.749	基準年-1% 9.652	基準年-2% 9.554	基準年-3% 9.457
	化学物質使用量の制御 防蝕液も客先指定濃度の維持		維持	維持	維持
	事業項目 ・パネルの不良率を低減させる (単位:%)	0.0600	基準年-1% 0.0594	基準年-2% 0.0588	基準年-3% 0.0582

* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 二酸化炭素排出量はH27年度の購入電力消費量(120,282kWh)に排出係数0.505を乗じた原単位

* 原単位は工場売上高当りである

5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

4)宮城工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年2月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,825	基準年-1% 2,797	基準年-2% 2,769	基準年-3% 2,740
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	15.50	基準年-1% 15.35	基準年-2% 18.08 1	基準年-3% 17.9 1
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	77.00	基準年-1% 76.23	基準年-2% 75.46	基準年-3% 74.69
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,923	基準年-1% 1,904	基準年-2% 1,885	基準年-3% 1,865
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	8.745	基準年-1% 8.658	基準年-2% 8.570	基準年-3% 8.483
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	1,019	基準年-1% 1009	基準年-2% 999	基準年-3% 988
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	100	基準年-1% 99	基準年-2% 98	基準年-3% 97
	水使用量 (単位:m3/千万円)	3.749	基準年-1% 3.712	基準年-2% 3.674	基準年-3% 3.637
	化学物質使用量の制御 防腐液の客先指定濃度の維持		維持	維持	維持
	事業項目 ・内壁枠不具合の低減(単位:%)	0.59	基準年-1% 0.58	基準年-2% 0.58	基準年-3% 0.57

* 電気の排出係数:0.591kgCO2/kWhを使用(平成26年度公表の東北電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高当りである

* 1は平成29年1月から車の使用状況が変わった為、1～5月のデータを基にした基準値に変更した。

5.環境経営目標 (平成28年度～平成30年度)

5) 本社

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に係る項目	電気使用量 (単位:kWh)	16993 14,881 1	基準年-1% 16,823	基準年-2% 14,583 1	基準年-3% 14,435 1
	ガソリン使用量 (単位:ℓ)	6,950	基準年-1% 6,880	基準年-2% 6,811	基準年-3% 6,741
	灯油使用量 (単位:ℓ)	84	基準年-1% 83	基準年-2% 82	基準年-3% 81
	液化石油ガス(LPG)使用量 (単位:kg)	23.88	基準年-1% 23.64	基準年-2% 23.4	基準年-3% 23.16
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2)	24,997	基準年-1% 24,747	基準年-2% 24,497	基準年-3% 24,247
削減廃るに棄 項関物 目係削	一般廃棄物 (単位:kg)	288	基準年-1% 285	基準年-2% 282	基準年-3% 279
	水使用量 (単位:m3)	96	基準年-1% 95	基準年-2% 94	基準年-3% 93

* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 化学物質の使用はない為、目標として取り上げていない

1 …… 取組の結果の明確化を図るため、メーターによる使用量を計上することとした。

6.環境経営計画及び実施状況

は計画サイト

は実施サイト

	石塚工場・資材部	藤岡工場	足利工場	宮城工場	本社
1 二酸化炭素排出量削減に係る項目					
1) ガソリン・軽油の使用量について					
・エコドライブの掲示					
・アイドリングストップ					
・不必要なスピードは出さない					
・急発進・急停止を避ける					
2) 電力使用量について					
・昼休みの消灯					
・エアコンの温度設定表示					
・設備使用後は、スイッチOFF					
・コンプレッサ稼働時間の短縮					
・休憩時コンプレッサ電源オフ					
・時間外労働削減					
・照明の間引き・LED照明へ切替					
2 廃棄物削減に関する項目					
1) 一般廃棄物について(コピー用紙)					
・印刷前に必要か確認					
・現状の印刷物の必要性再確認					
・社内封筒は「使用済み」を使用					
2) 木材廃棄物について					
・歩留り向上による削減					
・製紙用チップへの割合向上					
3) 廃プラについて					
・廃棄物の少ない材料を検討					
・廃棄物の圧縮・減容					
3 水使用量削減に関する項目					
・節水の表示					
・節水の呼びかけ					
4 化学物質使用量の制御					
・客先と協議し、防腐処理を要する木材品目の低減					
5 事業項目					
・廃棄パレットの再利用					
・カナダ製木材の不良率低減					
・パネル不良率の低減					

7.環境経営目標の実績

全事業所、平成29年6月～平成30年5月の実績である。

1) 石塚工場・資材部

項 目	基準	実績	基準との差		評価
電気使用量(kwh/千万円)	4,480	4,428	-52	-1.16%	未達
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	36.49	34.44	-2.05	-5.62%	達成
軽油使用量(ℓ/千万円)	153.54	170.15	16.61	10.82%	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	2,747	2,763	16	0.58%	未達
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	9.11	6.94	-2.162	-23.75%	達成
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	279	488	209	74.91%	未達
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	7.51	0	0	-100.00%	達成
⑧総排水量(m ³ /千万円)	3.042	3.548	0.506	16.63%	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
輸入木材の不良率低減(%)	6.9	6.19	-8.43	-10.29%	達成

2) 藤岡工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
電気使用量(kwh/千万円)	3,363	3,105	-258	-7.67%	達成
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	4.96	5.61	1	13.10%	未達
軽油使用量(ℓ/千万円)	68.60	73.73	5	7.48%	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,890	1,778	-112	-5.93%	達成
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	12.82	14.18	1	10.61%	未達
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	868	1,315	447	51.50%	未達
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	22.42	19.72	-3	-12.04%	達成
⑧総排水量(m ³ /千万円)	2.98	11.69	9	292.28%	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
2×4材の不良率(%)	10.2	5.6	-5	-45.10%	達成

3) 足利工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
電気使用量(kwh/千万円)	2,516	1,543	-973	-38.67%	達成
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	12.29	9.70	-2.59	-21.07%	達成
軽油使用量(ℓ/千万円)	49.74	56.31	6.57	13.21%	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,431	952	-479	-33.47%	達成
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	5,011	2,730	-2,281	-45.52%	達成
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	331	211	-120	-36.12%	達成
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	461	385	-76	-16.52%	達成
⑧総排水量(m ³ /千万円)	9.749	4.226	-6	-56.65%	達成
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
パネルの不良率(%)	0.0600	0.0408	-0.019	-32.00%	達成

4) 宮城工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
電気使用量(kwh/千万円)	2,825	2,963	138	4.88%	未達
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	18.5	20.4	1.920	10.41%	未達
軽油使用量(ℓ/千万円)	77.00	89.69	12.690	16.48%	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,923	2,068	145	7.54%	未達
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	8,745	8,850	0.105	1.20%	未達
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	1019	998	-21	-2.06%	未達
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	100	339	239	238.70%	未達
⑧総排水量(m ³ /千万円)	0.882	1.145	0.2630	29.82%	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
内壁枠不具合の低減(%)	0.59	0.18	0.18	-69.49%	達成

5) 本社

項目	基準	実績	基準との差		評価
電気使用量(kwh)	14,881	14,709	-172	-1.16%	未達
ガソリン使用量(ℓ)	6,950	5,063	-1887	-27.15%	達成
灯油使用量(ℓ)	84	141	57	67.86%	未達
液化石油ガス(LPG)使用量(kg)	24	17	-7	-29.69%	達成
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	24,997	20,133	-4864	-19.46%	達成
一般廃棄物排出量(kg)	288	204	-84	-29.17%	達成
⑦総排水量(m ³)	96.0	84.6	-11.4	-11.88%	達成

8. 主な環境負荷実績(平成27～29年度)

			H27年	H28年	H29年
二酸化炭素排出量	電力使用量	藤岡工場	674,859	588,332	529,000
		石塚工場	580,956	602,555	550,415
		足利工場	120,282	104,451	98,926
		宮城工場	319,233	303,864	279,988
		本 社	16,993	17,442	14,709
		合 計	1,712,323	1,616,644	1,473,038
	化石燃料 ガソリン・軽油	藤岡工場	14,763	13,754	13,516
		石塚工場	24,007	25,361	25,430
		足利工場	2,965	3,705	4,233
		宮城工場	10,456	9,881	10,399
		本 社	7,034	4,772	5,063
		合 計	59,225	57,473	58,641
	二酸化炭素	藤岡工場	351,577	332,928	302,776
		石塚工場	331,631	369,436	343,377
足利工場		63,452	62,333	60,931	
宮城工場		217,286	207,774	195,364	
本 社		23,725	20,133	20,133	
合 計		987,671	992,604	922,581	
廃棄物排出量	単位:t	藤岡工場	196	198	231
		石塚工場	43	44	61
		足利工場	38	40	38
		宮城工場	130	116	113
		本 社	0.38	0.24	0.20
		合 計	408	398	444
総排水量	単位:m ³	藤岡工場	597	1,400	1,991
		石塚工場	445	404	441
		足利工場	467	279	271
		宮城工場	427	406	467
		本 社	96	106	85
		合 計	2,032	2,595	3,255

9.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

1)環境活動の取組結果の評価

二酸化炭素排出量の削減

石塚工場・資材部

・昨年度はすべて未達成だったものが、ガソリン使用量は目標を達成することができた。
電力使用量に関しても、削減目標まではいかなかったが削減することができた。軽油の増加率がかなり高い為、二酸化炭素排出量は未達成となってしまった。
・電力使用量は基準4,480kWh/千円のところ実績が4,428kWh/千円と52kWh/千円削減できた。
生産性向上のため、稼働率の少ない設備を取り外したことが主な原因と見られる。
・ガソリン使用量は基準36.49L/千万円のところ34.44L/千万円と2.05L/千万円の削減。前年度拡大した営業エリアが縮小し、遠方への出張がなくなってきたことが削減につながった。
・軽油使用量は基準153.54L/千万円に対して170.15L/千万円と16.61L/千万円の増加。リフトマンへの周知が不十分であったことと、フォークリフトを1台減らしたことによる稼働率の増加が原因と考えられるが、主な原因は特定できていない。

藤岡工場

・電力消費量については基準 3,363 KWh/千万円に対し、実績 3,105KWh/千万円で-258KWh/千万円、-7.7%と目標の達成となった。主な要因は11月に老朽化した大型設備を新規に入れ替えた事が挙げられる。その他にもきめ細かい生産管理によって一つの設備稼働時間を短縮した結果、使用しない電力を押しえられた事が要因として挙げられる。
・ガソリン消費量については基準 4.96L/千万円に対し、実績 5.61L/千万円で+0.65L/千万円、+13.1%の数値で目標には0.75L/千万円届かなかった。方針により工場間の行き来や顧客訪問の利用が増えたことによるものである。運転中のエコドライブやエコモードを心掛けたが目標には至らなかった。軽油消費量については基準 68.60L/千万円に対し、実績 73.73L/千万円で+5.13L/千万円、+7.5%で目標には6.5L/千万円届かなかった。主な要因はフォークリフトの使用年数が5~7年経過し燃費が低下していることが挙げられるが、搬送距離が長い為、無駄な移動時間が増えていることも要因の一つとして考えられる。
しかしながら僅かではあるが計画運行によって改善された事例もあった。

足利工場

・基準 1,431kg-co2/千万円に対し、実績952kg-co2/千万円と-479kg-co2/千万円、-33%と大幅に削減することができた。電力消費量の評価で書かれているようにLED照明の効果が大きいと思う。環境への負荷の自己チェックの取りまとめ表の割合を見ても昨年の電力のCO2排出量約88%に対し、今年度は82%と6%も下がった事がわかる。その他ガソリンが2.33% 1.78%、軽油が15.2% 10.17%、LPGも0.09% 0.09%と全体的に下がった。

宮城工場

・基準 1,923kg-co2/千万円に対し 実績2,068kg-co2/千万円と+145kg-co2/千万円、8%のプラスになった。
原因として、仕事量が前年比-8.7%ダウンした事により、仕事量確保の為、外注から内作への切り替えで設備稼働率がアップしたことが、一番の原因と考えます。また、新たな生産品種増し、今後、新たに生産効率UPと歩留まり向上をメンバー全員で意識し、二酸化炭素排出量削減に努めたい。

本社

・例年より寒い日が続く、灯油使用量は昨年より増加してしましたが、二酸化炭素排出量全体の数値は-19.5%と減少。昨年に引き続きガソリン使用量が大幅に削減することができた。
電気使用量も目標2%には届かなかったが、基準14,881KWhに対して実績14,709KWhなので-1.16%削減することができた。

廃棄物排出量の削減

石塚工場・資材部

・木材 209kg/千円増加 廃プラ 0kg/千円という結果になった。
木材は基準年度である平成27年度から樹種が変更になり、チップとして再利用できない木材が発生していたが、今年度は倍近く仕入れがあるため、その分廃棄物も増加したと考えられる。
仕入れが減少することはない、客先指定の樹種のため、基準値の是正処置を行う。
廃プラに関しては、有価物としての処分に規制が入ってしまったため、分別のみにとどめている。来年度より処分を行う。

藤岡工場

・産業廃棄物の木材(合板)については+51.0%と大きく増加に転じてしまった。その背景にはリサイクル用のチップ引取り回数が制限されたことやチップ機の設備稼働率が低下したことにより処理出来ない木材を産業廃棄物として搬出したことが背景にある。端材利用や規格の見直し等を行ったが、それ以上に排出量の方が上回ってしまった結果である。廃プラについては産出量減少により廃プラ量が低下した状況化である。

足利工場

・一般廃棄物については基準 5.011 kg/千万円に対し実績 2.730 kg/千万円と-2.281 kg/千万円、-45.5%と大幅に削減することができた。要因として毎日、使う指示書を可能なものすべて両面印刷に変えた事。裏紙も定着して来た事。少量ではあるが、パーレスのFAXを取り入れた事が大きいと思う。
木材については基準 331 kg/千万円に対し実績 292 kg/千万円と-39 kg/千万円、-11.7% を達成した。
要因としては根太の設定サイズ以外については長物からカットするようにし、端材を少なくするようにした。また、客先と相談して今まで木材の良品を使っていたものを合板の端材を使えるように変更した。その他、釘付き木材の釘を抜くことで、チップ用に変えることができた。断熱材については基準2.861kg/千万円に対し3.310kg/千万円と約15%増えているものの他事業所の防腐作業が増えていることも踏まえれば使用量としては特に問題ない数量で維持していると考えている。

宮城工場

・一般廃棄物については基準8.745kg/千万円に対し実績8.9kg/千万円と+0.155kg/千万円、と若干のプラス。
廃プラに関しては、今まで有価で引き取っていた物が、産廃となり、基準基準 100 kg/千万円に対し実績 338.7 kg/千万円と+238.7kg/千万円 +239%と大きくプラスとなってしまった。再度、廃プラの削減と処分方法を検討し、廃棄物排出量の削減に努める。

本社

・裏紙の使用やコピー使用後のリセットなどの取組の他に、他部署とのFAXをデータ化するなどの取組を行っているため、-29.17%の削減に繋がったと考える。来年度はFAXをデータで受信するように設定してもらい、実行予定。

水使用量の削減

石塚工場・資材部

・基準と比べて0.506m³/千万円と増加してしまった。漏水の検査をし、工事を実行したが、まだ直しきれていない可能性も否定できない。現在原因を特定することができない状態であるため、基準値を是正する。

藤岡工場

・基準 2.98m³/千万円に対し、11.69m³/千万円と+8.71m³/千万円、+292%と大きく増加へ。埋設されている古い水道管からの漏水と見られるのが原因なので現在工事を予定中である。もう一つの大きな要因として冬場に防火貯水タンクの凍結によって漏水したことも原因として挙げられる。活動としてはバルブによる水圧調整を行ったが、効果としてはあまり見られなかった。

足利工場

・基準 9.749m³/千万円に対し、4.226m³/千万円と-5.523m³/千万円、-57%と前年と比較しても5.674m³/千万円、4.226m³/千万円と-26%となった。要因として昨年と同様に2016年9月に実習生1名が帰国に伴い工場敷地に併設している寮を退去したことに加え、2017年7月にポンド塗布器を導入したことで攪拌時に使用していた水がほとんど使われなくなった効果もある。その他、社員の節水に対する意識も向上している為、必要以上に使わない様、気を使っているように見受けられた。

宮城工場

・基準 0.882m³/千万円に対し、1.145m³/千万円と0.236m³/千万円、+30%となった。今年、1月、2月に水道管凍結による漏水が発生し、通常の3倍の使用量となってしまった。それ以外は、ほぼ基準のマイナス2%をクリアしている。今までの節水活動とポスター等の張り替え等を行い エコ意識を高め、目標達成に努めます。

本社

・基準に対して-11.88%削減することができ、さらに昨年使用量106m³と比べて-21.4m³の削減ができた。古い蛇口を交換し、新しい浄水器を取り付けたことが大きな削減に繋がっていると考え。今後はこの結果に満足することなく、継続して節水に努めていきたい。

化学物質使用量の制御

石塚工場・資材部

・0.839kg/千万円の増加があったが使用量はほぼ前年度を維持。客先指定濃度を維持できている。

藤岡工場

・購入品に対する化学物質の把握から必要なSDSを入手し管理台帳を付けることによって維持管理を行った。又、使用量についても管理台帳にて管理出来る様にした。

足利工場

・基準2.861kg/千万円に対し3.310kg/千万円と約15%増えているものの他事業所の防腐作業が増えていることも踏まえれば使用量としては特に問題ない数量で維持していると考えている。

宮城工場

・毎月1回 防腐済みの試験片を検査機関へ郵送し薬剤の使用量が適正か否かを検査し、管理しています。引き続き、使用量を適正な管理を行い、過剰な使用は、絶対行わない。

事業項目

石塚工場・資材部

・輸入材の不良率は-8.43%と大幅に達成することができた。
メーカーへの改善要求も定期的に行うようになったため、今後はもっと削減していきたい。

藤岡工場

・目標に対し不良低減率が-4.37%に低下した。背景には木材購入先の一部変更や現地に対して現状の状況から要求等を重ねた結果、粗悪品の混入が減少したことによって不良率の低減につながった。又、製品基準に対して担当者への教育を重ねたことも寄与していると考えられる。

足利工場

・基準0.060%/千万円に対し0.060%/千万円で達成となった。今期は試作を行う時に事前に転用、処分方法を決めていた為、処分するパネルも減ったと思う。

宮城工場

・内壁枠生産不具合率が、基準の7.08%から0.15% - 6.9%大きく削減できた。作業者が、チョコ停を異常と認識し、原因追及と対策に取り組んだり、工程の前後で不具合情報の交換が密になり原因を潰した結果と認識します。今後も不具合情報を共有して削減に努めます。

その他

石塚工場・資材部

・生産性向上のため、外装課レイアウト変更を実施した。稼働設備の合理化を図り2台の設備を他工場へ移設した。今後も継続して行い、見せる工場へ。
次年度は内装2課のレイアウトを実施する予定である。

藤岡工場

・5S活動を通じて、不要な物が撤去され、物の位置が固定された状態になり識別管理が出来る様になった。又、一部ではあるが可視化が進んでいる。

足利工場

・今期もをピフォーアフター継続して5S活動を行ってきた。その中で分別ごみのチェックなどを行う事が出来た。

宮城工場

・安全衛生委員会による安全衛生パトロールを中心に、5s活動を推進し 廃棄物削減とエネルギー使用量の削減に努めます。

本社

・長年使用していないものの撤去等。5Sに少しずつ時間をかけて行うようになった。
今後は在庫量の調整、置き場スペースの確保などを実施する予定。

2) 次年度の取組内容のポイント

二酸化炭素排出量の削減

石塚工場・資材部	・老朽化した設備等の入れ替え
	・社用車の暖機運転やエアコンの使用について教育
	・効率の良いフォークリフトの移動レイアウトの実施
藤岡工場	・老朽化した設備を見直し省電力が備わった設備への移行・入れ替え
	・更なる生産性向上による電力使用量の削減
	・照明器具の位置を見直すことによって照明の個数を減らす
	・フォークリフトの運行計画やレイアウト変更により稼働時間の低減を行う
	・的確な人員配置や計画によりフォークリフトの台数削減
足利工場	・横持トラックの入れ替え
	・電気式フォークリフト
宮城工場	・レイアウト・作業方法変更によるフォークリフト使用時間の削減
	・廃プラの削減
本社	・エアコンの室外機にカバーをするなどの工夫
	・継続したエコドライブや公共交通機関の使用
	・作業の効率化によるNO残業デーの実施でパソコン等使用時間の削減

廃棄物排出量の削減

石塚工場・資材部	・ペーパーレスの推進・FAXではなくメールでのやり取りへ
	・端材が出ないよう購入サイズの見直しを検討する
	・廃プラの分別の徹底
藤岡工場	・顧客へ製品改善を提案し歩留向上による端材削減
	・不良材や端材の基準を明確にし再加工品へ積極的に転用
	・納入資材の不要な梱包の削減
	・社内再利用品の明示と活用
	・ネットワークを利用したペーパーレスの推進
	・指示書出力の見直しを行い unnecessary 指示書は印刷しない
足利工場	・材料の梱包資材の変更、削減、リサイクルの検討
宮城工場	・廃プラのリサイクル化への検討
本社	・FAXのデータ受信の設定
	・部署間のやり取りのデータ化

水使用量の削減

石塚工場・資材部	・表示物の貼り替え・意識向上を図る
	・定期的な漏水検査を実施する
藤岡工場	・漏水の原因究明と早期改善
	・水洗トイレのバルブによる水圧の調整を行う
	・冬場の水道管の凍結防止策
足利工場	・雨水タンクの設置
宮城工場	・節水ポスターの張り替えによる意識向上
本社	・節水ポップの貼り替え

化学物質使用量の制御

石塚工場・資材部	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく
藤岡工場	・使用がある際はSDSに沿って適正な取り扱いを行う
足利工場	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく
宮城工場	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく

事業項目

石塚工場・資材部	・メーカーとの定期的な打ち合わせの継続
藤岡工場	・定期的にメーカーへの改善要求と担当者への基準の理解を深める
	・品質状況を勘案しながら購入先の変更
足利工場	・材料の選別と投入向き継続し、パネル組立不良を減らしていく
宮城工場	・内壁枠生産不具合率低減

その他

石塚工場・資材部	・内装2課レイアウト変更を実施 ・レイアウト変更後、LED電球の導入を検討する
藤岡工場	・個人個人が何事にも興味をもち自ら考え行動出来る工場への改革
足利工場	・5S活動ピフォーアフターの継続
宮城工場	・5s活動の推進
本社	・5SのDVD研修を実施する ・購入量の調整

10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

全工場および本社は、平成30年6月中に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果違反は有りません。尚、関係当局からの違反の指摘も過去5年間無く、訴訟等も過去に1件も有りません。

11.代表者による全体の評価と見直し指示

全体についての評価、今後への指示事項

<p>1、取組みがマンネリ化していないか？全体で確認をすること。 ・ネット等にて他社の取組を自社に当てはめる。 ・顧客・仕入先等での取組を分析し真似る。 ・社員が参加している事を意識する(感じられる)仕組みを考える。</p> <p>2、廃プラは有価販売から産廃へと環境にも経営にも負担である。有効的な再利用を検討する。</p> <p>3、石塚工場については今期中にLED照明を検討する。</p>
--

環境経営方針	クワッド法の認定に伴い、平成30年6月に改定。合法木材の使用は、地球温暖化対策において優先する取り組みであり、会社の社会的責任に合致する。この仕組みを適正に運用する事。
環境経営目標及び環境経営計画	環境経営目標は基準年の-2%設定。取組から4年経ったため-1%/年間の目標は適正と判断する。但し達成状況は年々低下しており、原因究明を早期実施する事。
実施体制	本年9月1日付で社内人事異動を実施。EA21担当者も一部変更した。取組みも2017年度へ移行しており、担当者へ責任者である岡村から指導をすること。